

北浦地域プロジェクト(中型まき網・収益性回復型) もうかる漁業創設支援事業実施結果報告

【事業実施者:北浦漁業協同組合】

実証期間:平成23年4月1日~平成25年3月31日

北浦地域の中型まき網漁業において経営の安定的持続を図るため、当該地域所属の全船団(19トン型6ヵ統)で「北浦灘アジ」の活魚化率の向上を主体とするまき網漁業の改革に取り組むこととし、全船団の灯船で共同探索を行い、情報を共有化して魚群探索の効率化を図り、併せて運搬船の相互利用及び(改革型漁船の導入で削減した)乗組員4名を専任生簀管理者に配置し、蓄養した漁獲物の管理を高度化することにより活魚化率を向上させ、もって水揚げ額の増大を図ることをねらいとした収益性の回復事業を実施した。

実証項目

【生産に関する事項】

①探索の効率化

②活魚化率の向上

③蓄養魚の管理の高度化

【流通・販売に関する事項】

販売ルートの開拓

実証結果

【生産に関する事項】

①全操業時6船団の灯船で共同探索を行い、魚群分布、海況等に関する情報を共有化することにより魚群探索の効率化を図るよう努めた。

②運搬船の活魚積載量は1隻当たり約6トンが上限となる。船団単位で操業する従前の操業方式ではこのことが活魚化率向上の阻害要因の一つとなっていたことから、プロジェクト参加船団間で運搬船を相互利用することにより活魚化率の向上を図った。その結果、当該地区6船団の従前の活魚出荷に適したサイズのアジ、サバの平均漁獲量(530トン)に対して、実証事業におけるそれは初年度218トン、第2年度146トンで、それぞれ4割及び3割と激減した。このため、船団間で運搬船を相互利用し活魚化率の向上を図ることを試みる機会を得るに至らなかった。

③改革型漁船で省人化した4名の乗組員を専任生簀管理者に配置し、蓄養尾数の確認、蓄養魚の健康管理を行う等蓄養した漁獲物の管理の高度化を図った。

【流通・販売に関する事項】

既存の「北浦灘アジ」の販売ルートを活用した販売を行うとともに、新たな販売ルートの開拓を試みたが、活魚出荷に適したサイズのアジ、サバの漁獲が例年の3~4割と激減したため、生産した活魚の大半を現行の販売維持に用いることを余儀なくされ、関東方面の販路拡大等活発な販売活動を展開するに至らなかった。

収支の状況について

実証事業初年度はイワシ、サバ主体に13,425トン水揚げし、767百万円の水揚げ金額を得た。初年度に要した経費(事業管理費とそれに係る消費税を除く)は823百万円で、収支は55百万円の収入不足であった。第2年度はイワシ、サバ主体に10,997トン水揚げし、627百万円の水揚げ金額を得た。当該年度に要した経費は890百万円で、収支は264百万円の収入不足であった。実証事業の収支は、両年度ともに収入不足であった。その要因として高い単価がとれる活魚出荷に適したサイズのアジ、サバの漁場への回遊が例年に比し極端に少なく、その漁獲が激減したことがあげられる。